

復活節第 6 主日 (ヨハネ 15:9-17)

あなたも「互いに愛し合いなさい」に招き入れられる



五月になりました。教会は五月を「聖母月（マリア様の月）」と呼びます。いつもより 30 分早くミサに来て、マリア様にささげるロザリオの祈りに参加しましょう。イエス様は「わたしの愛にとどまりなさい」（15・9）と招いています。五月はロザリオを唱えることで、マリア様を通してイエス様の愛に留まることにしましょう。

五月五日は「こどもの日」です。今日は、子供たちにも届いてほしいなあという気持ちで話しています。与えられた福音朗読のいちばん最後をもう一度読みましょう。「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」（15・17）

これは、今日の福音のまとめだけでなく、イエス様が私たちに求める生き方のまとめでもあります。ちょっと言い方を変えると、「互いに愛し合うこと」は、イエス様が私たちに求めている「必要なこと」です。

「必要なこと」と言いました。ルカ福音書の中の「マルタとマリア」の物語を思い出しました。イエス様はマルタにこう言います。「しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」（ルカ 10・42）「互いに愛し合う」とは、イエス様が私たちに求める「ただ一つの必要なこと」そう言えるかもしれません。

「ただ一つの必要なこと」が「互いに愛し合うこと」なのですが、「互いに愛し合うこと」は、そんなに簡単ではありません。学校やクラブで、仲良くできる人よりも仲良くできない人の方が多いかもしれません。仲良くできない人が多いとしたら、「互いに愛し合う」ことは非常に難しいです。それなのにイエス様は、「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」と言っています。「できればお願いします」と言っているのではありません。「命令です」と言っているのです。

イエス様は、無理と分かっているのに命令する方だと思いますか？ 中田神父はそうは思いません。難しい命令かもしれませんが、必ずやり遂げるための力と助けを与えてくださいます。仲良くできない人の方が多いとき、イエス様の力と助けがなければ、命令をやり遂げることはできません。どこで、その力と助けをいただけるのでしょうか。

力と助けをいただく場所、それは今参加しているミサの中なのです。ミサに参加し、聖書の言葉と御聖体でイエス様に交わり、いただいたイエス様の愛を人々に分かち合いに行く（「宣教」のことです）。今参加しているミサが、仲良くできている人ともできていない人とも互いに愛し合う力と助けをいただく場所なのです。いただいたイエス様の愛を分かち合うことで、愛し合うことができるようになります。

今日の説教は「こどもの日」を少し意識して話しました。目の前で話を聞いた子供たちは少ないかもしれません。けれどもこのミサの説教をあとで見たり聞いたりした人が、もう一度子供たちと一緒に観たり聞いたりしてくれたら嬉しいです。一人でも多くの方が、「互いに愛し合いなさい」というイエス様の声に、耳を傾けることができますように。

主の昇天(マルコ 16:15-20)